

一般質問・質疑

6月定例会で行われた一般質問と質疑の概要をお伝えします。

質問議員6名

(一般質問4名・質疑2名)

■一般質問

市の行政全般にわたり、現状や将来の方針について聞くことです。

■質疑

議会に提出された議案について、その内容や疑問点を聞くことです。

本会議のネット中継及び録画配信を行っております。

各議員の一般質問、質疑については、市議会ホームページによりご覧いただけます。

スマートフォンやタブレット等で視聴する場合はこちらのQRコードを読み込んでください。



■一般質問

北野唯道

Q 新型コロナウイルスの対応について、いつ・どこで・誰が感染しても不思議ではない新型コロナウイルス感染拡大の危機に

対する市長の心構えについてお示し願いたい

A 爆発的な感染が危惧された段階では命を守ることが優先され

経済活動をストップさせたが、経済もまた命・生活を維持する重要な要素である。今後は家計を応援し、地域産業を全力で支えていかなければならない。市としても状況に応じた支援策を的確に講じていく。

Q 市内の企業や飲食店等に対する影響について

A 60を超える事業者を訪問し、

直接聞き取りをしたほか、産業サポート白河や観光物産協会、商工会議所、各商工会、ハロー

ワーク白河へ出向いて影響について情報収集している。

Q 新型コロナウイルスの児童・生徒に対する影響について

A まずは、不足している14日間の授業時数を確保するため、夏休みを短縮し8日間を確保したところである。残り6日分は一日当たりの授業時間数を増やすことで補う。



■ 一般質問



室井伸一

Q 羅漢山霊園の合葬墓とはどのような施設なのか

A 合葬墓とは、亡くなられた方の遺骨を合同で納める施設で、参拝スペースには献花台や線香台、生前のお名前を刻む墓誌が設置されており、いつでも参拝ができるお墓のことである。個々の墓石を設置しないため、利用者の費用負担が少なく、少子高齢化や核家族などにより、やむを得ない事情でお墓を引き継ぐことができない方でも安心して利用できる施設である。

Q 遺骨の納め方と使用できる数について

A 遺骨の納め方は1階の納骨壇に一定期間お預かりした後、地下にある地下埋蔵室に移す方法と、直接、共同埋蔵室に納める方法の二通りある。



〈羅漢山霊園の合葬墓〉

納骨壇は、お一人用が185、夫婦等で利用するお二人用が110の計295人分が用意されている。また、地下の共同埋蔵室には1万500人分を納めることができる。

■ 一般質問



柴原隆夫

Q コロナ感染防止と自然災害

(大雨、地震等) による複合災害対策が必要で、災害時に避難する市民の感染防止策が求められている。「密接、密閉、密集」を避ける「2メートル離れて」のルールから市が指定する避難所だけでは不足が予想され、新たな避難所の増設や親戚、知人宅などへ身を寄せる「分散避難」が課題となる。感染防止に不可欠なマスク、消毒薬、体温計や非常時の持ち物の備え、避難所でのルールの周知や熱中症対策も課題になる

A 議員ご指摘の避難所不足や感染防止策の課題に対応するため早急に避難所開設訓練を実施し検討していく。

Q 災害時には、常に高齢者、障害者等の社会的弱者が犠牲になっている。気象衛星の科学技術

の発達により数日前から大型台風が発生時から進路状況が把握できる。安全な時間帯に早目の避難誘導を行うことが大切と思われるが

A 大雨状況を的確に把握し早目の避難誘導ができるように努めていく。





■ 一般質問

深谷 弘

学校再開後の教育について

Q 新型コロナによる学校休業により、子どもの学習の遅れと格差拡大がもたらされた。また、子どもたちはかつてない不安やストレスをため込んでいる。市教委からは、臨時休業により削減された授業時数確保のため、夏休み短縮、日課変更、学校行事削減の方針が示された。これでは「つめこみ」になり、教員にも子どもにもストレスを増やすことになる。子ども一人ひとりを大切にする手厚い教育が必要ではないか



A 学力を保障し、不安を軽減・解消していくには、これまで以上にいい取り組みが必要である。ただ単に授業時数を確保し、一年間の学習内容を終わらせることのみ目指すのではなく、学習内容を精選・重点化し、子どもの実態に応じたわかりやすい授業で、学力向上を図るのが必要である。また、学校では感染症への不安を取り除けるよう、学級ミーティング、不安ごととアンケート、個別面談で心のケアに取り組んでいる。



Q 高齢者見守り生活支援事業について

ついて

A 移動販売車により高齢者世帯を訪問し、日常生活に欠かせない「買い物」の支援と「孤立を防ぐための見守り」を定期的かつ継続的に実施するもの。対象は旗宿を含む表郷、大信、東地域。計658世帯。

Q アプリでつながる商店等魅力発信サポート事業について

A スマートフォンアプリを活用したお店の情報発信や割引クーポン券を発行するもの。参加店にてQRコードの掲示などを行い宣伝する。経済効果は1500万円の見込み。



Q ICT教育環境整備事業について

A 小中学生全員に「一人一台タブレット端末」を今年度中に整備する。主に学校で活用する。学校が臨時休校になった場合でもオンライン授業による活用を想定している。Wi-Fi環境がない家庭へは貸出モバイルWi-Fiルーターを整備することを検討している。

Q ドライブインシアター開催事業について

A 秋口に2日間程度、コミネス北側駐車場にてスクリーンを設置し、車から映画を楽しむ。1回の上映で35台程度が鑑賞可能。アイドリングストップを励行する。

■ 質疑

大木 絵理



質疑

大竹 功一

議案第68号白河第二中学校建設
事業建築工事請負契約について

Q なぜ今回、総合評価方式入札を採用したのか

A 建築物が大規模なこと及び狭小敷地内の難易度が高い工事であること。さらに工期が三年半となることなどの理由により、価格と品質が総合的に優れた企業にしたい。

Q 技術点とは、どのようにして算出されるのか

A 企業の技術力・技術者の技術力・地域に対する貢献度・施工計画の適切性の4項目の合計点である。自己採点ができるほど明快である。

Q 価格評価点については、どのように算出されるのか

A 総合評価方式要領において算出方法は定めており、入札公告により公表している。算出に当たっては、設計内容に適合した工事の確保ができる下限の価格として評価基準価格を定め、その価格以上の入札価格のうち最も低いものが落札者となる。



〈白河第二中学校完成予想図〉

請願・意見書

今定例会において審査された請願・意見書について、その内容と結果についてお知らせいたします。

請願議案

案件番号	案件名とその概要	議決結果
請願2 請願者 福島県教職員組合中央執行委員長	「国の「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願 東日本大震災によって、経済的に困窮している家庭の子供たちの就学・修学を保障する支援のため、令和3年度以降も全額国庫で支援する「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、十分な就学支援に必要な予算確保を国へ要望する意見書を提出すること。	採択 (全会一致) 関係機関に意見書を提出しました。
請願3 請願者 日本労働組合総連合会福島県連合会白河地区連合会議長	地方財政の充実・強化を求める意見書提出の請願 令和3年度の政府予算と地方財政の検討にあたり、社会保障、感染症対策、防災、環境対策、地域交通対策、人口減少対策など、増大する地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う地方一般財源総額の確保などを図ることのほか、9項目にわたる公共サービスの提供などを求め、関係機関に対して要望し、意見書の提出を求めるもの。	採択 (全会一致) 関係機関に意見書を提出しました。